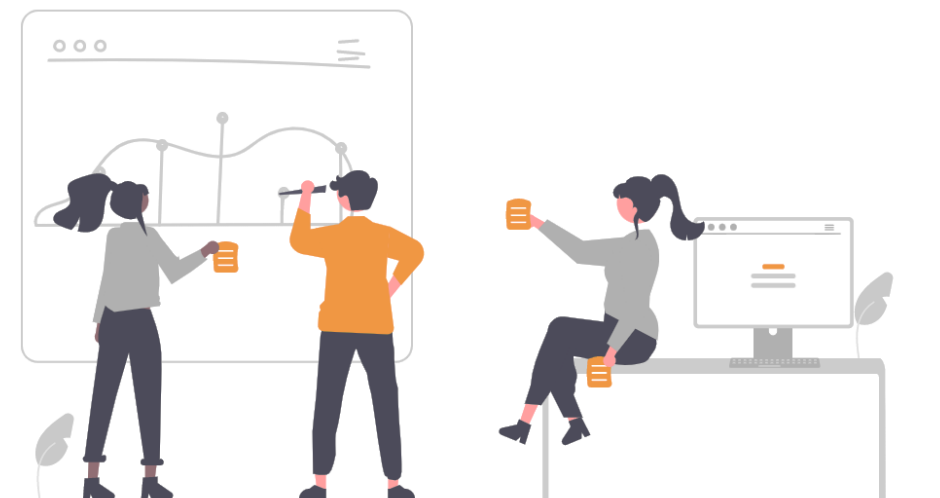


SAMPLE

【暫定版】  
学校現場での  
ワークショップのための  
ハンドブック

校内連携・外部連携推進のヒント



<b>Chapter 1</b>	<b>ワークショップ型研修の経緯と特徴</b>
	ワークショップ研修の経緯……………1 ワークショップ型研修の特徴……………3
<b>Chapter 2</b>	<b>目的：共有ビジョンをつくる</b>
	KPT分析……………7 ループ図による分析……………9
<b>Chapter 3</b>	<b>評価：ルーブリックをつくる</b>
	マクロルーブリック作成ワークショップ……………13 教科・科目のルーブリック作成ワークショップ……………15
<b>Chapter 4</b>	<b>実践：探究型授業をつくる</b>
	パターン・ランゲージを利用した授業実践共有……………19 授業デザイン会……………21 模擬授業・振り返り会……………23
<b>Chapter 5</b>	<b>外部連携：共創ワークショップ</b>
	ワールド・カフェ……………27 SWOT分析……………29 内省的インタビュー……………31
<b>Chapter 6</b>	<b>現在の取組と今後の展望</b>
	PLCによる課題研究支援カンファレンス……………35 グッドプライスの取材……………37 全校体制構築のための工夫と普及……………39



<b>Chapter 1</b>	<b>ワークショップ型研修の経緯と特徴</b>
	ファシリテーションとリフレクションの導入

## 01

共有ビジョンをつくる

現状を振り返り新たな挑戦を見出す

## KPT分析

KPT method

SAMPLE

## 実施例 目指す生徒像を探るワーク

対象

高校生・教職員

人数

12～60名程度

時間

1～2時間

形態

サークル

## ワーク概要・目的

アメリカのプログラマーAlistair Cockburn氏が提唱した「The Keep/Try Reflection」という手法を元に、振り返りの手法として日本の企業等で発展したものです。3つのフレームで効果的に現状を分析し、次の行動を考えることができます。

## 実施方法

## ▶ 準備

- ・ 壁に模造紙を2枚程度貼り、ファシリテーター用の水性マーカーを数本準備
- ・ 模造紙を囲んで半円のサークル形式で6名程度の椅子のみを準備
- ・ ファシリテーターは、「K」「P」「T」のフレームを模造紙に記入

## ▶ 実施の流れ

- ① グランドルール提示後、各班のファシリテーターが進行する。
- ② 最初に「Keep」良いところを出し合う。
- ③ 次に「Problem」課題を出し合う。
- ④ 2つの振り返りを受けて「Try」挑戦したいことを出し合う。
- ⑤ アレンジとして、本校では最後に各班からキーワードを挙げてもらう。

K	T
.....	.....
.....	.....
P	
.....	
.....	keyword
	.... ..

## POINT

## 1 全員の参加

発言しやすいよう各班でチェックイン後、少なくとも最初だけは全員が交代で話すようにする。また、グランドルールを示し、安心安全の場を確保する。

## 2 意見の記録

Kの話し合い中にPに及んだ時には、Pに記入する。また、同じ意見が出された際には、初出の部分に下線を引くことで、発言者も安心することができる。

## 「グランドルール」

- 自分の尊重
  - ① 言いたいことは貯めずに言ってよい
  - ② 言いたくないことは言わなくてよい
- 他者の尊重
  - ① 積極的な参加を
  - ② 1人で話しすぎない
  - ③ 誹謗中傷はしない
- 秘密厳守
 

発言内容は、この場がぎり

## ■ 実施内容

本校で、目指す生徒像を探るためのワークショップとして、最初に実施しました。若手を中心に各班のファシリテーター担当を決めて模擬ワークショップをするなど丁寧に始めました。

## ■ 実施上の工夫

## ① 目的の確認

職員研修を企画するチームで最初に次の目的を共有した。「学校内外や社会の様々な変化に対応できる、普遍性・汎用性の高い学校教育システムを構築することで、本校生徒が将来にわたって豊かな人生を送ることができる本校ならではの教育活動を再編・整備する。」

## ② 大事にしたい方針の確認

- 企画チームでは、さらに次の方針を共通認識として確認した。
- ・ その場しのぎではなく、長期的に活用できるものにする
  - ・ 出来上がった各種システムは、先生方を苦しめるものにならない
  - ・ 学校改革等に悩む学校の参考になるようなものである
  - ・ ワークショップは、他者批判ではなく建設的かつ受容的である

## ③ 多様な意見の尊重

ワークでは、生徒や職員、施設・設備に及ぶ幅広い意見が出されていたが、否定せずにファシリテーターが模造紙に記録していった。

## ■ 成果物と評価

模造紙の記録は、研修企画チームで手分けをしてテキストデータにした後、テキストマイニングのワードクラウド等を利用して分析した。

## 参加者の声



学校のことについて普段考えていることを話す機会は、あまりありませんでした。しかし、先生方と一緒に話す中で、他の方も同じように感じていたということが分かりました。また、施設面を含め多様な課題を共有することができました。

## 主な文献・資料等

- ▶ 藤原友和(2011)「教師が変わる!授業が変わる!」ファシリテーション・グラフィック」入門」明治図書
- ▶ スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書・Ⅲ期1年次(2023)熊本県立熊本北高等学校(成果物としての「熊本北高校グランドデザイン」を掲載)

## 02

探究型授業をつくる

全員参加型のプロセス重視の授業づくり

## 授業デザイン会

Class Design Meeting

SAMPLE

## 実施例 探究型授業づくり実践

対象

教職員

人数

4～60名程度

時間

1～2時間

形態

サークル

## ワーク概要・目的

授業デザイン会は、授業者が未完成の授業の構想を持って来て、それを参加者全員で練り上げていくワークになります。プロセス重視した活動であり、ワーク自体が学びの場となり、さらに参加者全員で作りに上げることで授業者だけの責任にならない特徴もあります。

## 実施方法

## ▶ 準備

- 壁に貼った模造紙と水性マーカー、もしくは黒板やホワイトボードでも可
- 模造紙を囲んで、サークルで4～6名程度1班で着席

## ▶ 実施の流れ

- ① 授業者が対象、科目、目標、授業の流れを簡単に紹介する。
- ② ファシリテーターが模造紙に記録し、流れに沿って、導入・展開・まとめを話し合い、授業案を具体的に広げたり、深めたりする。
- ③ この後に、模擬授業体験会を実施する場合には、必要に応じて参加者と最後まで授業案やプリント、教材を練り上げていく。

## POINT

## 1 正解は無い

探究型授業やICT活動等、新しい研究テーマで授業づくりをする際には、まさに「答えのない課題」であり、一方的な指導ではない共創が必要と言えます。

## 2 教科を混ぜる

左のような研究テーマでは、教科を混ぜることで、様々な視点や専門以外の高校生に近い視点も得られ、狭い内容への過度な入り込みを防ぐことができます。

## 3 記録する

授業づくりをしている際には、様々な意見や考えが出されますが、ファシリテーターが整理しながらグラフィックとして残すことで、参加者の頭も整理されます。

## ■ 実施内容

授業デザイン会は、数名が集まれば1時間程度で実践が可能です。そのため、研究授業や初任者研修、教育実習生等の授業づくりなど幅広く利用できる方法と言えます。ここでは、探究型授業として地学と古典とのクロスカリキュラム授業を校外で実施した際の様子を簡単に紹介します。

## ■ 実施上の工夫

## ① 授業完成度9割

デザイン会と模擬授業体験までを研修プログラムとしていたため、9割程度まで授業を作った上で、細かな部分や問いの検討等を中心に練り上げました。研究授業等、実施までの時間に余裕がある場合には、2割程度の構想段階から授業デザイン会を実施することも可能です。

## ■ 成果物

授業デザイン会の記録の一部(左側)。全体での検討を受けて、資料の提示の仕方を手書きで要点を絞ったものに変更しました。時間が無かったため、まさに全員参加で資料も手書きしていました(右側)。



## 参加者の声



普段は、一人で授業づくりもしていますが、教科を越えた先生方が参加することで、今まで思いつかなかった視点や感じ方をリアルタイムで共有することで、新たな考え方や手法を学ぶことができました。

## 主な文献・資料等

- ▶ リクルート進学総研「アクティブラーニング型授業への挑戦【番外編】アクティブラーニング型授業研究会くまもと」Career Guidance, 416, pp39-41,



## 01

会議の工夫

## 課題研究指導者による日常的リフレクシ PLCによる課題研究支援 カンファレンス

対象	人数	時間	形態
教職員	20～30名程度	0.5～1時間	緩やかなアイランド

### ワーク概要・目的

PLC(Professional Learning Community)とは、米国を中心に理論と実践が進展し、教職員の学び合いの関係性の中で、持続的な学びと改善の機会を提供するものです。本校では、課題研究に関わる教職員が増えたことを契機に、週に1回のPLCの時間を設けることにしました。

### 実施方法

#### ▶ 準備

- ・ 課題研究の記録を生徒がポータルサイト上に記入する。
- ・ 教職員は、ポータルサイトの書き込みをもとに、生徒との振り返りと次回の計画等を話しておく。

#### ▶ 実施の流れ

- ① 必要に応じて、次回の課題研究授業の流れや生徒への指導の流れを説明する。
- ② 近くに座っている4名程度で、体調+ひと言等でチェックインを実施。
- ③ 前回の進捗状況をポータルサイトも利用して班内で共有する。
- ④ 交代で全体でも進捗状況を報告し、支援方法について全体で情報を共有する。

### POINT

#### 1 開催意図の共有

一般的な会議と異なり、参加者間の情報交流や、経験学習を意図しているため、特に最初の内は目的やルールを丁寧に伝えます。

#### 2 研修記録に利用

本校ではPLCを「研修履歴」の「任命権者が必要と認めるものの、研修等・学校現場で日常的な学びとして行われる一定の校内研修・研究等」に位置づけています。



生徒のオンライン研究日誌

### 実施例 課題研究支援のための研修として

#### ■ 実施内容

課題研究のテーマ設定方法について全体で共有するため、PLCの時間を利用した研修を実施しました。ここでは、リフレクションカードを利用した質問の方法や会の進行について確認をしました。その翌週には、各分野におけるテーマ設定の進捗状況について共有しました。

#### ■ 実施上の工夫

##### ① リフレクションカード

課題研究のテーマ設定では、自身の興味関心さらに、在り方生き方と向き合いながら考えていくことを大切にしています。しかし、そのレベルまで深掘りをするような振り返りには、熟達した質問技法が必要となります。そこで、そのような質問や手法がまとめられているカードを利用しました。

##### ② テーマ設定時の進捗状況の共有

PLCのメインの活動である。最初の進捗状況の共有では、大まかなテーマ設定の中のフレームにおいて、各分野の担当の先生方がどのような工夫をしているのかをグループで共有しました。Miroを利用したマインドマップ作成や、マインドマップを複数回利用したテーマの深掘りの手法など先生方のこれまでの経験に基づく工夫を共有しました。



リフレクションカードによる質問体験



班活動による事例紹介

### 主な文献・資料等

- ▶ 千々布 敏弥(2021)「先生たちのリフレクション 主体的・対話的で深い学びに近づく、たった一つの習慣」教育開発研究所
- ▶ 熊本北高校SSH研究部(2023)「SSH関連3会議の刷新・新設 全校体制での課題研究推進を視野に」SSH NEWS Vol.347, 2

## 引用文献・資料等

※ 初出のみ記載

### Chapter 1

中野民夫, 三田地真実(2013)「ファシリテーター行動指南書 意味ある場づくりのために」ナカニシア出版  
Argyris & Schon (1974) Theory in Practice: Increasing Professional Effectiveness, San Francisco: Jossey-Bass Publishers.  
ピーター・M・センゲ, リヒテルズ直子訳(2014)「学習する学校 子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する」英治出版

### Chapter 2

藤原友和(2011)「教師が変わる!授業が変わる!」ファシリテーション・グラフィック」入門」明治図書  
スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書・Ⅲ期1年次(2023)熊本県立熊本北高等学校  
ドネラ・H・メドウズ, 枝廣純子訳(2015)「世界はシステムで動く いま起きていることの本質をつかむ考え方」英治出版

### Chapter 3

ダネル スティーブンス・アントニア レビ著、佐藤 浩章・井上 敏憲・俣野 秀典訳「大学教員のためのルーブリック評価入門」玉川大学出版部  
De Sellers et al.(2015)「Academic TRANSFORMATION」Pearson Education, Inc.  
吉田新一郎(2006)「テストだけでは測れない!人を伸ばす「評価」とは」生活人新書

### Chapter 4

Creative Shift 「パターン・ランゲージとは?」  
<https://creativeshift.co.jp/>  
慶應義塾大学 井庭崇研究室&株式会社クリエイティブシフト制作「パターン・ランゲージ一覧」[http://web.sfc.keio.ac.jp/~iba/patterns\\_j/index.html](http://web.sfc.keio.ac.jp/~iba/patterns_j/index.html)  
リクルート進学総研「アクティブラーニング型授業への挑戦【番外編】アクティブラーニング型授業研究会くまもと」Career Guidance, 416, pp39-41,  
リクルート進学総研「アクティブラーニング授業実践の悩みはこう解決!小林昭文先生/「ラブレター」「リフレクション&アクションカード」「授業見学用ワークシート」」 <https://souken.shingakunet.com/secondary/2016/09/post-135a.html>  
渡辺 貴裕(2019)「授業づくりの考え方 ―小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ」くろしお出版  
フレット・コルトハーヘン、武田信子監訳(2010)「教師教育学―理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ」学文社

# SAMPLE

### Chapter 5

香取一昭,大川恒(2009)「ワールド・カフェをやろう 会話がつながり、世界がつながる」日本経済新聞出版社  
熊本北高校SSH研究部(2022)「理数教育に関わる高大社連携でのワークショップの実施 熊本北高発「共創ワークショップ」成果普及. SSH NEWS Vol.342, 2 経済産業省「まんがでわかる「SWOT分析」」ミラサポplus <https://mirasapo-plus.go.jp/hint/16748/>  
熊本北高校SSH研究部(2022)「福島県立白河高校との共創ワークショップ」SSH NEWS Vol.343, 1  
Indeed Editorial Team (2022) 16 Self-Reflection Questions To Ask Yourself for Introspection. <https://www.indeed.com/career-advice/career-development/questions-to-ask-yourself-for-introspection>  
David J. Bland, Alexander Osterwalder (2019)「Testing Business Ideas A practical guide to effective business model testing」Wiley  
熊本北高校SSH研究部(2022)「地域課題の解決を見据えて共創ワークショップ in 御所浦島 実施」SSH NEWS Vol.341, 1

### Chapter 6

千々布 敏弥(2021)「先生たちのリフレクション 主体的・対話的で深い学びに近づく、たった一つの習慣」教育開発研究所  
熊本北高校SSH研究部(2023)「SSH関連3会議の刷新・新設 全校体制での課題研究推進を視野に」SSH NEWS Vol.347, 2

<執筆者>

溝上 広樹(熊本県立熊本北高等学校SSH研究部/指導教諭)

<編集>

前田 敏和(熊本県立熊本北高等学校SSH研究部/教諭)

**【暫定版】**  
**学校現場でのワークショップのためのハンドブック**  
**校内連携・外部連携推進のヒント**

発行日: 令和5年(2023年)6月1日発行 初版  
発行: 熊本県立熊本北高等学校  
〒861-8082 熊本県熊本市北区兔谷3丁目5番1号

